

## ブルンジ月報（2019年4月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 10日、タンザニアの難民キャンプから744人のブルンジ難民が帰還した。
- 2020年の各種選挙の規約が成立した。
- 3月のCNL党の活動開始以降、130人以上の党員が逮捕された。
- 18日、大統領の恩赦執行により600人以上の囚人が釈放された。

※以下は、明示したものを除き、ブルンジ・オンライン・メディア Iwacu の報道を取りまとめたもの。

#### 【内政】

##### ・ ブルンジ難民のタンザニアからの帰還（12日）

10日、744人のブルンジ難民が、タンザニアのニャルグス難民キャンプからUNHCRの支援により帰還した。

##### ・ 2020年の各種選挙の規則成立（19日）

17日、ブルンジ議会は、2020年の各種選挙に関する規則を採択した。これによると、大統領選挙、下院議院選挙、地区行政官選挙は同じ日に実施され、上院議院選挙、村長選挙は後日実施される。また、大統領選挙立候補者の預託金は3,000万ブルンジ・フランとなった。

##### ・ CNL党員の逮捕（19日）

マゲラ（Aime MAGERA）CNL（National Congress for Liberty）報道官は、CNLが2019年2月14日にブルンジ内務省により新しい政党として公式に承認されたにもかかわらず、3月10日に公に活動を開始して以降、130人以上の党員が逮捕され、その多くが拷問を受けたと述べた。

##### ・ 大統領恩赦による600人以上の囚人の釈放（24日）

18日、2018年12月31日の大統領恩赦令状が執行され、600人以上の囚人が釈放された。2015年の恩赦では3,400人以上、2016年には6,000人以上、2017年には2,200人以上、2018年には2,700人以上が同様に釈放された。

#### 【経済】

##### ・ 高い利子による経済開発の阻害（25日）

24日、ンクルンジザ（Janvier Desire NKURUNZIZA）経済専門家は、ブルンジ商業銀行の利子が高いため、デフォルトを引き起こすリスクがあると述べた。同経済専門家は、ブルンジ人の7%しか銀行を使っておらず、国民の90%以上が農業で生計を立てているにもかかわらず、同分野への資金の配分は非常に少ない、と述べるとともに、農業はGDP

の40%を占めているとして、同分野への貸付けの増額を訴えた。

(了)